

虚子記念文学館報

2021年4月
第40号

祝千五百号 表紙絵でたどる

ホトトギスの軌跡

令和三年四月一日～令和四年三月六日



200号 大正2年5月
小川千麿画



100号 明治38年4月
橋口五葉画



創刊号 明治30年1月
題字は下村為山



500号 昭和13年4月
小川芋銭画



400号 昭和4年12月
石井柏亭画



300号 大正10年9月
津田青楓画



1000号 昭和55年4月
小倉遊亀画



900号 昭和46年12月
小倉遊亀画



800号 昭和38年8月
川端龍子画



700号 昭和30年4月
川端龍子画



600号 昭和21年12月
石井柏亭画



1492号 令和3年4月
岡 信孝画



1400号 平成25年8月
岡 信孝画



1300号 平成17年4月
岡 信孝画



1200号 平成8年12月
岡 信孝画



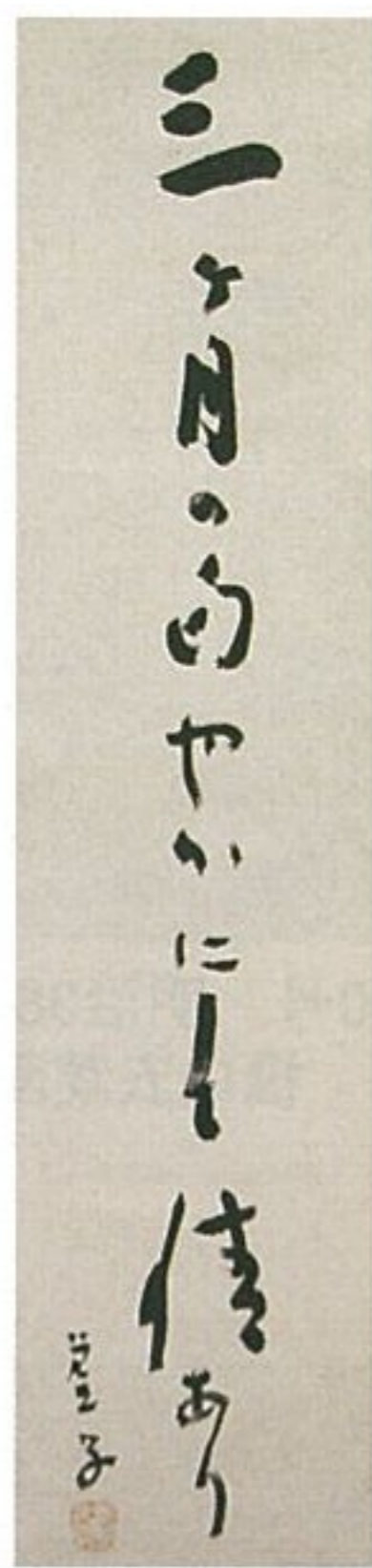
1100号 昭和63年8月
岡 信孝画

祝千五百号記念

ホトトギスの軌跡

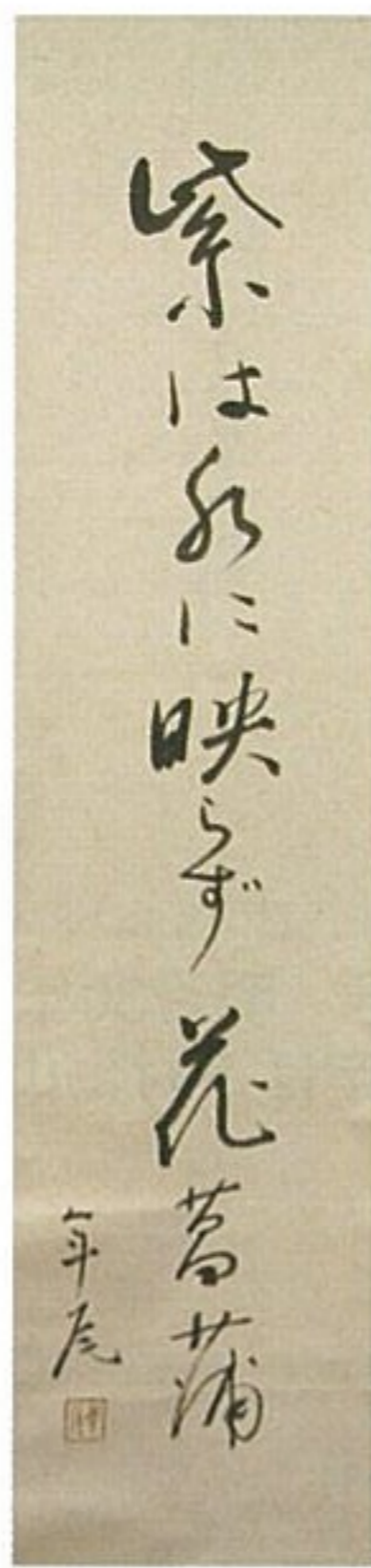
高浜虚子「三ヶ月の句やかにして情あり」

句は昭和十四年九月十五日、虚子六十五歳の詠。虚子は昭和二十六年三月より、主宰を年尾に交代した。



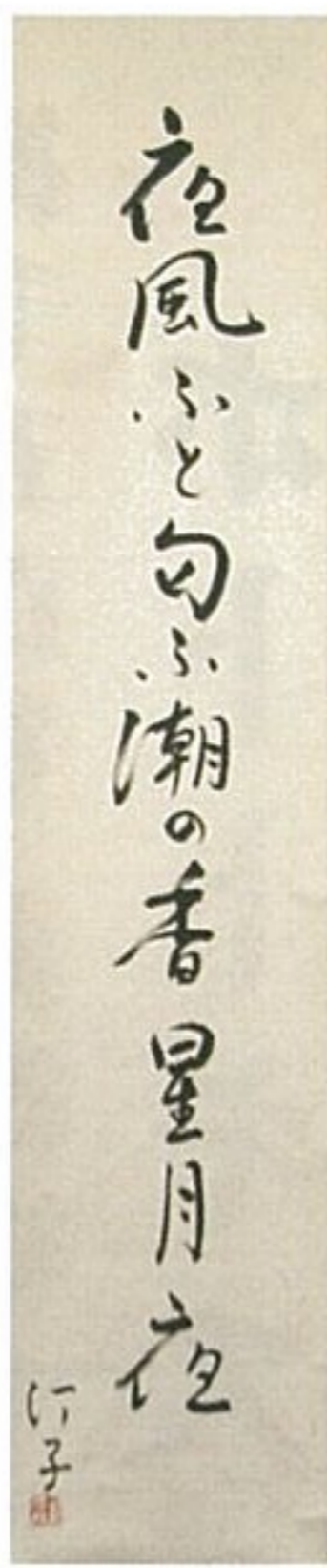
高浜年尾「紫は水に映らず花菖蒲」

句は昭和四十一年六月十四日、曇天の大宰府での詠。天満宮東神苑の菖蒲池には、水中にこの句碑が建立された。年尾は五十二年七月、脳内出血で倒れるもリハビリに励み、病院内での句会指導にも努めた。



稲畑汀子「夜風ふと句ふ潮の香星月夜」

句は急遽主宰に就任した翌年の、昭和五十三年九月の詠。「汀子第二句集」に収録。汀子主宰時代の表紙絵は、川端龍子の孫にあたる、岡信孝が繊細でのびやかな花鳥画を提供し、岡の表紙絵は、平成二十五年四月より主宰となった稲畑廣太郎も継承。特別仕様の千五百号が待ち遠しい。

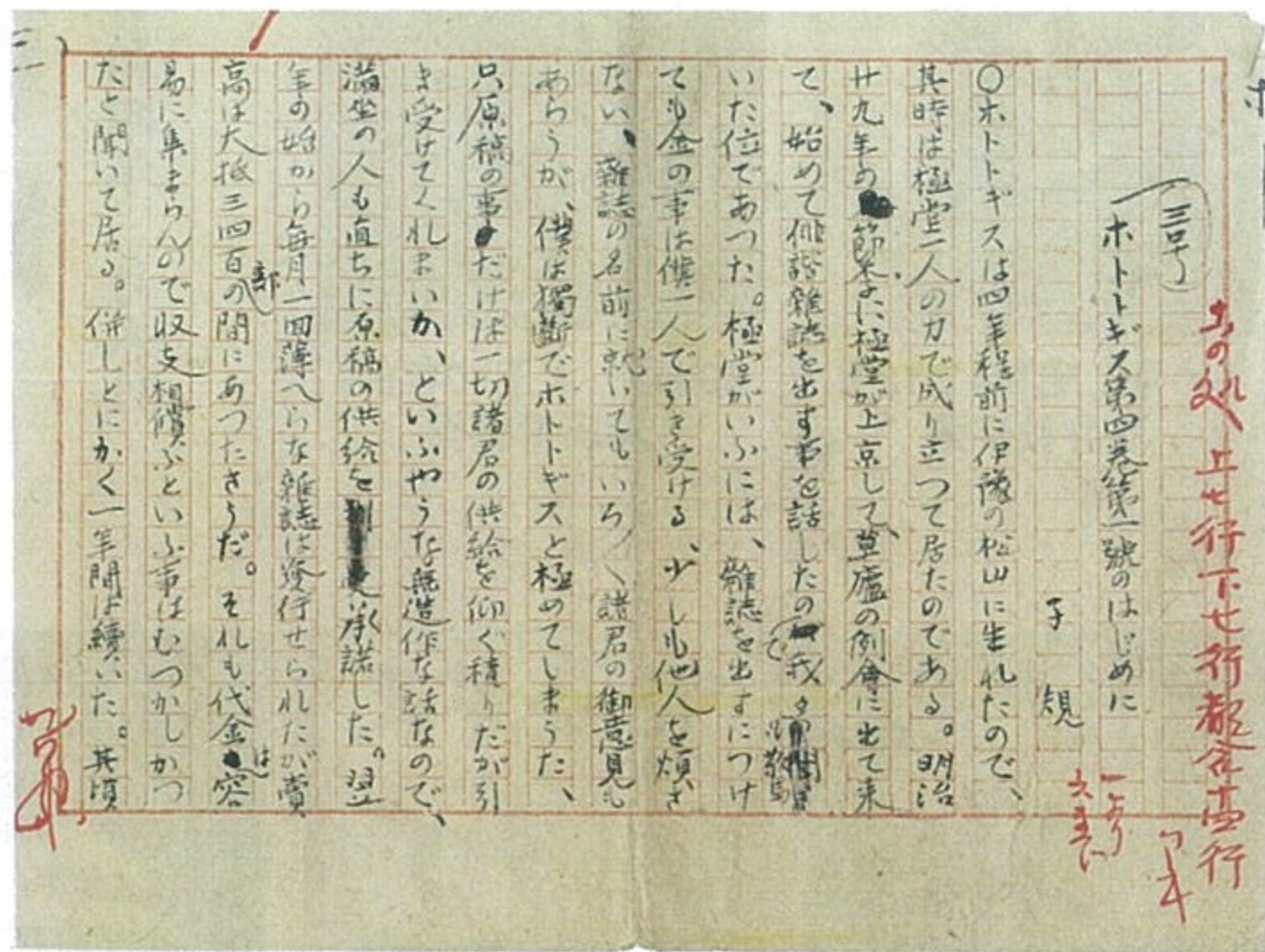


《明治三十年、松山にて柳原極堂が創刊》

日本で最も古い俳句雑誌「ホトトギス」は、今年十二月で記念すべき千五百号を迎えます。

そもそも「ホトトギス」は、松山で海南新聞社に勤務する、子規と同窓の柳原極堂が、俳句革新に孤軍奮闘する子規を応援するために創刊した雑誌です。

明治二十八年、新聞「日本」の記者として日清戦争に従軍した子規は、帰りの船中で咯血。九死に一生を得て、故郷松山で療養しました。子規が居候していた漱石の下宿先・愚陀仏庵には、松山の新派俳句同好会「松風会」のメンバーが、子規から直接教えを受けようと連日詰めかけています。この松風会メンバーの一人が、極堂でした。



子規が「ホトトギス」創刊当時を回顧した自筆原稿 (明治33年10月号「ホトトギス」掲載)

その後東京に戻った子規は病状が悪化し、リウマチだと思っていた脚腰の激痛が脊椎カリエスだと診断され愕然とします。そんな子規を励まし、子規から継続して俳句指導を仰ぐため、極堂は月刊俳句雑誌を発行。子規の名に因んで「ホトトギス」と命名します。

極堂は編集・発行・発送等のすべてを独力で行いましたが、如何せん雑誌は毎号赤字続きで本業も忙しく、東京での「ホトトギス」発行を子規に依頼します。極堂が子規庵を訪問したのは、明治三十一年七月四日のことでした。

《明治三十一年「ホトトギス」東遷》

その結果、子規協力のもと、虚子が発行人となって「ホトトギス」を継承することが決まりました。「今度若しやるなら、臍を固めてやりたまへ。いよいよやると決まれば、小生は刑場に引かる、心持がする」(七月五日虚子宛子規書簡)と言ってくれた子規の有難い言葉に対し虚子は、「今度の決心も人より見れば、或は軽々かも知れぬ。併し小生自身に取れば、一生浮沈のわけ目だと思つてゐる。実は小生一人でもやらうと思つて居たのだ。大兄が刑場に引かる、心持でやつてやらうとの言を聞いて、感激の情に堪へぬのである」(七月八日子規宛虚子書簡)と、深謝の念をもって応じています。こうして東京版「ホトトギス」二巻一号は、明治三十一年十月に産声を上げたのでした。



東京版「ホトトギス」2巻1号 (通算21号)

東京版は下村為山の斬新な表紙絵が付き、写生文や新体詩、短歌、美術評論といった、俳句以外の文学にも意欲的でした。まだまだ文語体が主流であった時代に、話し言葉による文章を実践した「写生文」は、虚子が「ホトトギスの命」と称し、終生大切にされた文学ジャンルです。これは年尾、汀子へと引き継がれ、廣太郎が継承する令和「ホトトギス」においても、「雑詠句」と共に二大柱の一つとなっています。

《明治三十八年 百号は文芸雑誌時代》

明治三十八年四月の百号は、巻頭に漱石「我輩は猫

である(3章)」、虚子の小説「ほねほり」、碧梧桐の小説「げんげん花」と続きます。漱石の「猫」が爆発的人気を博したことから、百号から二百号にかけての「ホトトギス」は、小説や写生文中心の文芸雑誌仕様でした。表紙絵や挿絵の画家も下村為山・中村不折・浅井忠といった初期メンバーに、漱石紹介による橋口五葉が加わり、モダンで華のあるデザインが加味されています。



明治42年10月号
橋口五葉が手掛けた表紙絵

《大正二年 二百号は虚子俳壇復帰時代》

大正二年は「平明にして余韻ある俳句」を掲げた虚子俳壇復帰の年で、二百号には俳句関連記事が目立ちます。そもそも「雑詠」という自由題による募集俳句は虚子のオリジナルで、明治四十一年十月号から始まりますが、雑詠欄が目されるようになるのは、大正以降のことでした。

「ホトトギス」東遷当時は、虚子が単独で編集にあたっていましたが、虚子は若い頃から胃腸が弱く、健康を損なう度に碧梧桐や松瀬青々がピンチヒッターとして編集にあたっています。また文芸雑誌時代は頁数が増えて校正専門の社員が必要となり、国民新聞社の社員を派遣してもらっていた時期もありました。

しかし明治四十四年九月、発行部数減による経営難を打開するため、鳴雪・四方太・碧梧桐・鼠骨らと今後の方針を討論し、これまでの社員組織をやめ、原稿料を全廃することに決定。以後虚子は、千甕の戯画「虚

子十態」にある如く、執筆・編集・事務・発送等の仕事をすべて一人で担うことになったのでした。それゆえ過労がたたったのでしようか、大正十年九月の三百号は、虚子が前年に軽い脳溢血を起こしたことから大事をとって記念事業をすべて廃し、通常通りとしています。



大正元年9月号掲載の小川千甕戯画「虚子十態」

その代り昭和四年の四百号は、歌舞伎見物会や記念講演会、記念句会に晩餐会と、大祝宴会が続きました。講演会では水原秋桜子が「俳句に於ける自然描写」を論じ、鈴木三重吉が漱石の思い出等を披露しています。虚子を入れた二十四名が選句した『ホトトギス四百号記念句集』も配布されました。選者は山口誓子、後藤

夜半、藤田耕雪、川端茅舎、赤星水竹居、相島虚吼、楠目橙黄子、松本たかし、田中王城、富安風生、酒井黙禅、鈴木花蓑、鈴鹿野風呂、山口青邨、中田みづほ、

日野草城、清原枌童、阿波野青畝、西山泊雲、野村泊月、岩木躑躅、水原秋桜子、池内たけし。昭和初期に活躍した、名だたるホトトギス俳人達です。



『ホトトギス四百号記念句集』
昭和4年11月15日

《昭和十三年 記念事業目白押し五百号》

五百号記念事業は、虚子句集の決定版『五百句』の刊行、石井鶴三制作による虚子胸像、虚子と次男・池内友次郎がコラボした音楽を背景とするコロムビア俳句朗読レコード「四季諷詠」の販売、「誹諧」の創刊、及び『同人句集』『ホトトギス雑詠選集』の上梓等が相次ぎました。

しかし時代には恵まれず、昭和十三年四月二十九、三十日に予定していた記念祝賀会は、戦局により取りやめとなっています。



俳句朗読レコード「四季諷詠」
2枚組4面12分 4円40銭
石井柏亭画特製カバー

紙面の都合で戦前までの「ホトトギス」の変遷しか御紹介出来ませんでした。極堂から虚子に受け継がれ、年尾、汀子、そして廣太郎と百二十四年の歴史を刻む「ホトトギス」の軌跡を、記念号や表紙絵・裏絵、巻頭句等を通じてお愉しみいただければ幸甚です。

おぐらゆき
小倉遊亀の
表紙絵原画

小倉遊亀（明治二十八年〜平成十二年 百五歳）は、滋賀大津生まれ。大正二年に奈良女子師範学校国語漢文部に入学し、「白樺」に紹介されたセザンヌやゴーギャンの絵に強く魅かれ、卒業後は小学校で教鞭をとりつつ絵の制作に励み、大正九年に安田靉彦に師事しました。

遊亀が手掛けた「ホトトギス」の表紙絵は、昭和三十二年の「鰈」が初出。その後四十五年「山茶花」、四十七年「薔薇芽と蕾」、四十九年の「蜆売り」と続き、昭和四〜五十年代「ホトトギス」の顔となっていました。

「私ね、物みな仏でないものはない、と思っっている。ピーマンでも、枝豆でも、椿でも、梅でも、あ、いいなと思っった時は、みな仏さんです」と、対談集『画室のうちそと』で語った遊亀の志向は、人間も自然の一部であり、自然の前に敬虔な気持ちで佇んで写生する大切さを説いた、虚子の姿勢に近いようです。



「鰈」
昭和 32 年



「蜆売り」
昭和 49 年



「薔薇芽と蕾」
昭和 47 年 900 号



「山茶花」
昭和 45 年



「薄墨淡紅梅」
昭和 55 年 3 月号 年尾追悼号



「薄紅梅」
昭和 54 年



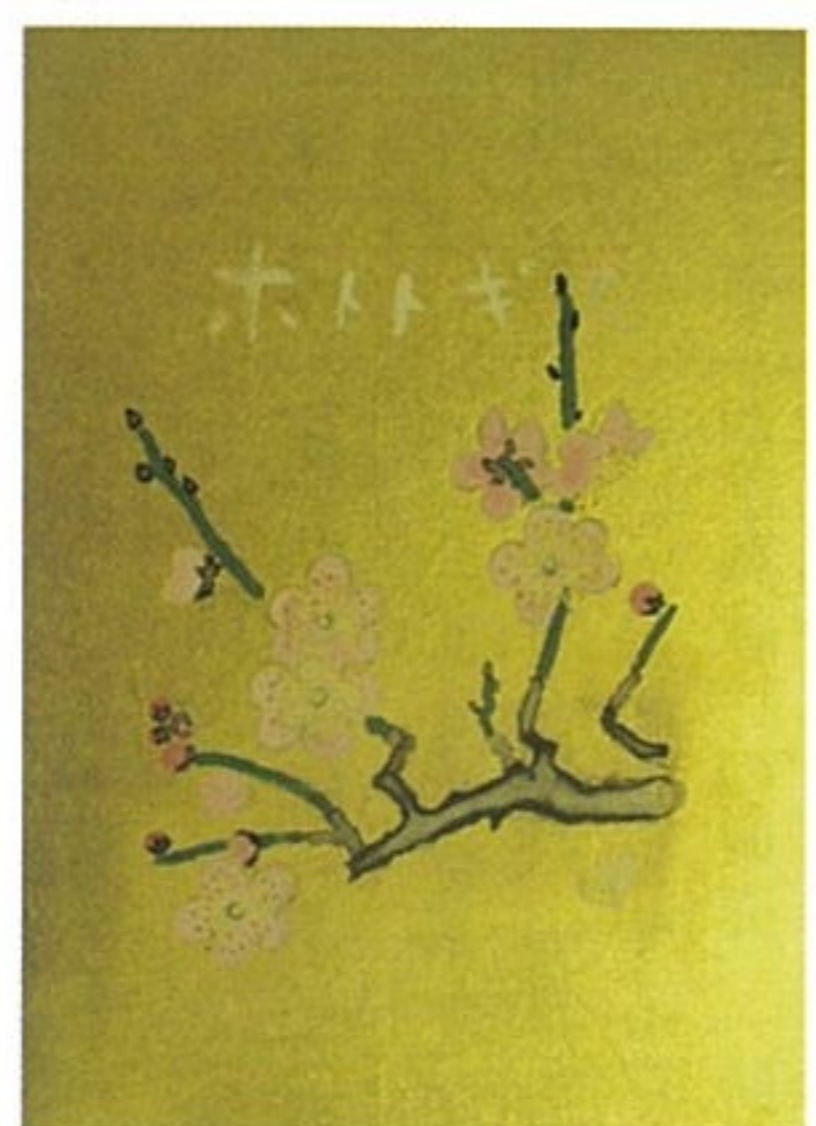
「白椿と紅梅」
昭和 53 年



「白梅と小菊」
昭和 50 年



「実梅」
昭和 59 年 遊亀 89 歳の作品。



「薄紅梅」
昭和 56 年



「蜀江錦」
昭和 55 年 壺千号

遊亀は梅と同様に椿の花をこよなく愛し、庭に何本も植えていました。中でも蜀江錦しよかうしんぎと呼ばれる大輪の班入りがお気に入りだったそうです。

花の歳時記

虚子記念文学館に咲く

編笠百合

昨年までは見かけなかったか、気付かなかったか、植栽の中に咲いたアミガサユリ。

ユリ科バイモ属で中国原産。和名「編笠百合」は淡緑色の花被片の内面に紫色の網目の紋があるのにちなむ。茎の上部の細い葉は先がかぎ形に曲がる。乾燥させた鱗茎（いわゆる球根）は貝母（バイモ）と呼ばれる生薬になる。この鱗茎は二枚貝のような丸く厚い形状をしており、葉名、属名の由来になっている。



2021年4月撮影

「編笠」は夏の季題。丈の高い編笠を深く被った人とは逆に、昨今はマスクのために、見しり貌を推測するには目元か声か髪形か。

編笠や口のあたりの見しり貌

虚子（明治三十二年）

第十四回虚子生誕記念俳句祭開催

令和三年二月二十三日（火・祝）、第十四回虚子生誕記念俳句祭を、当館多目的ホールにて開催しました。新型コロナウイルス対策として、参加者は例年の半分以下とし、入賞作品への表彰状授与、ミニ懇親会は行わない形式での開催となりました。

後援の芦屋市より、いとうまい芦屋市長のメッセージを頂戴し披露の後、入賞句選者講評、「山茶花」主宰、大阪芸術大学教授の三村純也氏による記念講演「俳句今昔物語」を行いました。中学生の頃より大阪の句会にご参加の氏の体験談、今とは少し異なる句会の様子、先生の先生方のお話、現在に至る俳句の様々のエピソードを「雑談」と仰りながらお話頂きました。

ご参加の皆様当日日出句（後日選・当季雑詠）特選句は次の通りです。

【稲畑廣太郎特選】 高橋 純子

朝の日や薄氷白き羽放つ

【三村純也特選】 田中 祥子

雑談といふ講演やあたたかし

【稲畑汀子特選】 山田 佳音
虚子館へ一歩一歩の暖かし



稲畑汀子館長
入賞句講評



三村純也氏講演
「俳句今昔物語」

理事会・評議員会報告

平成三十一／令和元（二〇一九）年度公益財団法人虚子記念文学館決算並びに事業報告は、緊急事態宣言発出のため、書面による持ち回り形式とし、全役員から承認されました。

公益財団法人虚子記念文学館理事会、評議員会が開催され、次のことが審議、決定されました。

- ・令和三年度予算
- ・令和三年度事業計画

虚子記念文学館館報 第四十号

令和三年四月三十日

編集・発行 虚子記念文学館

〒六五九-〇〇七四

兵庫県芦屋市平田町八-二二

電話（〇七九七）二一-一〇三六

FAX（〇七九七）三一-一三〇六

HP 〒FAX: <http://www.kyoshior.jp/>

e-mail 〒FAX: kyoshi@asemai.ne.jp

◆令和3(2021)年度 虚子記念文学館休館日カレンダー◆

令和3年 4月	5月	6月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7月	8月	9月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10月	11月	12月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
令和4年 1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

休館日（■印）毎週月曜日、祝日の翌平日、夏期、年末年始 他やむを得ず臨時閉館させていただく場合があります。展示替期間中は、一部ご覧いただけない箇所もございます。